

2月11日は

けん こく き ねん
建 国 記 念 の 日

今から2600年以上も昔のこと、日向の国(宮崎県)に、神日本磐余彦尊という人がいました。

磐余彦尊は、東へ東へと、当時の日本にあった小さな国の人々を従えていき、ついに大和(奈良県)に入り、南橿原という所に皇居を造り、2678年前の2月11日に、日本で最初の天皇になり「神武天皇」という名前になりました。

このお話は、やがてみんなが勉強する「古事記」や「日本書紀」という本の中に書かれています。この2つの書物は、日本の古くからの‘伝説(言い伝え)’を集めて、1300年ほど前、奈良時代に書かれたものです。これらは、“神話”とも言われます。

神武天皇は、76年も天皇の位に就いていて、137歳まで生きていた、という伝説もあります。この奇妙なちょっと信じられないような言い伝えのために、‘神武’という天皇など、日本にはいなかったのではないかと疑われています。

日本という国ができた日を、はっきりと示す証拠は、残念ながら確認されていません。しかし、私たちの日本は、いつの時代かに、誰かが

“国”として造り上げたはずです。

そこで、私たち日本人は、昔からの祖先の‘言い伝え’を尊重して、これらの書物に書かれている日、2月11日を、日本の国が出来た日「建国記念の日」としました。

世界中の多くの国は‘神話’を持っています。祖先からの言い伝えには、国の人々の心をつなぐ力があると考えられます。

世の中には、神話とは嘘の話だ、だからそんなものは信じない、という、夢やロマンを持たない人もいます。神話は、もしかしたら事実ではないかもしれませんが、でも、神話には、私たちの心をつなぐまとめるパワーが秘められています。神話によって、国の人々の心が一つにまとまるのなら、神話は、‘事実’を超えた“真実”というものになると考えられます。

日本は、世界でも稀に見る(めったにない)美しい自然に恵まれています。そのすばらしい‘自然環境’と、人々の美しい‘心の結びつき’が、私たちの国をこれからも栄えさせていくのではないのでしょうか。

人々が国を愛し、みんなが大切にす
る共通の神話を持つことで、日本は
もっと良い国になるに違いありません。

2月11日は、私たちのそんな美しい‘心’を確認し合う日なのです。



神武天皇(マンガ)